

第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調書

No. 0801005

政策目標	2 めくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	8 子育て・子育ての充実	事業優先度	B	
単位施策	2 「子育て」支援の強化	政策事務分類	2 単独自治事務(個別計画)	
事業名	一時預かり事業	見直し年度		
事業期間	平成20年度～平成24年度	担当課	8 保育所	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	利用延べ人数		#N/A	
事業目標	100人	ハード/ソフト事業区分	2 ソフト事業	
住民参加 住民協働	2	関係例規・法令名	雄武町保育規則、雄武町一時預かり事業実施要綱	
		関係個別計画名	1 雄武町次世代育成支援行動計画	

全体計画 事業内容		平成20年度 事業内容	平成21年度 事業内容	平成22年度 事業内容	平成23年度 事業内容	平成24年度 事業内容
計 画 内 容	緊急時等における保育対応	一時預かりの受入	一時預かりの受入	一時預かりの受入	一時預かりの受入	一時預かりの受入
計 画 事 業 費	事業費(千円)	3,250	650	650	650	650
財 源 内 訳	国庫支出金	540		180	180	180
	道支出金	360	180	180		
	地方債	0				
	その他	1,230	246	246	246	246
	一般財源	1,120	224	224	224	224
実 績 事 業 費	事業費(千円)	4,944	649	650	649	1,806
財 源 内 訳	国庫支出金	724		204	260	260
	道支出金	449	180	269		
	地方債	0				
	その他	2,199	256	111	445	668
	一般財源	1,572	213	270		262
関 連 事 項	(特定財源の詳細等) 一時預かり促進事業補助金 一時預かり使用料 【評価・実績】	(実施内容等) 一時的な預かり保育実施 (実績:131人) ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 一時的な預かり保育実施 (実績:71人) ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 一時的な預かり保育実施 (延べ人数:223人) ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 一時的な預かり保育実施 (延べ人数:453人) ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 一時的な預かり保育実施 (延べ人数:381人) ※前年度評価結果 A-継続/現状維持
	第4期総合計画関連 (継続有り)	年度目標値 100人	100人	100人	100人	100人
		年度達成率 100%	100%	100%	183%	278%
		全体達成率 20%	40%	60%	97%	152%
		事業進捗状況 ☆☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆

事業名	一時預かり事業	評価者 管理職 職氏名	保育所長	豊田通敏
		評価者 作成者 職氏名	児童保育係長	斉藤智美

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	就学前の幼児	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	年間利用延べ人数
【抱える課題やニーズは】	核家族化などが進み、一時的に子どもを預けられる環境が減少している。普通保育において入所定員を上回った場合の対応(待機児童対応)	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	緊急時において、一時的に子どもを預けることができる支援保育所に入所できなかった保護者の代替保育の場とする。	① 年間利用延べ人数	目標年度 平成24年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	乳幼児を持つ保護者の育児不安を和らげる。保護者の就労支援。		目標値 100人
			実績値 381人
			達成度 381.0%
		②	目標年度 年度
			目標値
			実績値
			達成度 #DIV/0!%
【内容(どのような手段で何をを行ったか)】	一時的な保育所受入れ	保護者の就労、疾病等により子どもの保育ができない場合、一時的に預かる。	
	待機児童対策による受入れ	保育所入所を希望していたが、定員超過により入所できなかった児童を、積極的に受け入れた。	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	本町保育規則及び一時預かり事業実施要綱により、本町子育て支援政策の一環として実施している。
必要/概ね必要/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	全部	核家族化が主体となっている現代では、緊急時において一時的に子どもを預けられる環境が乏しいため、本事業の実施は必要である。
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	目標を大きく上回り、必要とされるニーズにほぼ応えることができた。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	達成
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成
	<input type="checkbox"/>	下回る

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	保育所内での受入れであることから、無理なく、無駄なく事業の実施ができた。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制
	<input type="checkbox"/>	人員削減
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他

(4)事務事業の公平性

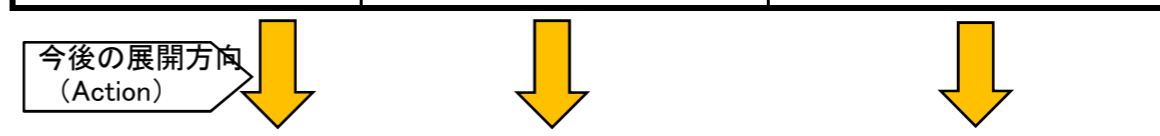
公平	判断の理由	保育所入所要件満たさない家庭においても、緊急又は不規則就労等の場合に活用できる。また、利用料は利用時間や食事の有無で区分し設定しているため、負担割合は公平である。
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担がある
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る
	<input type="checkbox"/>	その他

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
本事業は、年々広く知れ渡るようになり、利用者も増えている。家庭内による緊急時に子どもを預かる場が必要なのは時代の要請でもあり、子育て支援政策としてはその意義は大きい。		



継続/現状維持		
本事業は、状況等により利用数の変動があるものの、ニーズがなくなることは見込まれていない。受入体制に無理がないよう配慮し、制度周知を充実させ、安心できる子育て環境メニューの一つとして継続することが適当である。		

※展開方向の区分
 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 終了 休止 廃止